



産業と技術革新の基盤をつくらう

子どもたちが先端技術に触れる機会をつくらう

子どもたちが先端技術を見る目は輝いています。



IoT、ビッグデータ、人工知能(AI)、ロボット等の先端技術により経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな未来社会は、「Society 5.0」として提唱されています。AI技術の発達により人が行う業務の代替が可能になっても、技術革新と社会課題をつなげ、新たなビジネスを生み出す人材や研究開発を進める人材が必要です。

将来の先端技術の開発を担う若者を増やしていくため、子どもたちがIoTを駆使したバーチャル体験やロボット等の先端技術に触れる機会を多くつくり、興味・関心を引き出しましょう。

子どもが先端技術に触れる機会

- 国や自治体、企業等の体験イベント (ロボット製作、AI体験など)
- ロボットコンテスト
- 愛知県「サイエンス実践塾出前授業」 (愛知県の中学生が対象)
- 試して遊べるAIの体験サイト
- 子ども向けプログラミング体験サイト

先端技術を活用したモノやサービスを利用してみよう

先端技術は、社会課題を解決するとともに、私たちの生活を便利で豊かにしています。



生体認証とAIによりレジを通さず代金を自動で決済する無人のコンビニや、飲食店で注文をとったり配膳したりするロボットなど、少し前までは夢の技術と思われていたものが身近に登場しています。

利便性の向上はもとより、人手不足の解消、自然災害対応、医療や資源・エネルギー分野への活用など、先端技術は社会を支えていく役割が期待されています。新しい先端技術を積極的に利用しましょう。利用することが、先端技術に関係する企業等を応援することになり、さらなる技術開発につながります。さらに、先端技術を使った感想を周りの人に伝えたり、SNSを通じて発信すれば、関係企業等のPRになることはもちろん、誰かの生活や仕事に役立つ可能性も秘めています。

- 自動運転バス: 過疎地における交通手段
- EV・FCV: 脱炭素
- Maas: 移動の効率化、渋滞解消など
- ドローン: 移動困難地への配達、災害調査など
- 介護ロボット: 介護者の負担軽減
- 高性能蓄電池: 自然エネルギーの有効活用

TOPICS あなたの“あったらいいな”は？

スマートフォンやインターネットなど、技術革新で生み出されたモノやサービスは、誰かの“こんなものがあったらいいな”が実現したものです。世界がもっと便利で幸せになるには、どんな技術があったらいいか考えてみましょう。そして、ぜひ発信してみてください。あなたの“あったらいいな”が新しい技術を生み出すかもしれません。

その他の取組

- 身の回りの暮らしに役立つ新しい技術を調べてみよう
- AIや最新技術を活用した暮らしや働き方の変革を考えてみよう
- 新たなアイデアを生み出すイベントに参加しよう 途上国の技術支援への寄附をしよう

NECソリューションイノベータ株式会社東海支社 岡元 昌哉さん

2022年に愛知県の「サイエンス実践塾体験研究室」に講師として参加し、高校生にRPA (Robotic Process Automation: パソコン上の操作を代行するソフトウェアロボット) を使ってパソコン上の定型作業を行わせるプログラムを作る体験をしてもらいました。こうした体験を通じて、IT技術に興味を持ってもらい、将来の就職先の選択肢の一つになればと思います。小さい頃から先端技術に触れる機会はまだまだ少ないですが、子どもが興味を持ったことを職業にできるように、いろんな機会でもらいたいですし、特に地元企業の先端技術に触れる機会を企業や大人がつくることが大切だと考えています。





人や国の不平等をなくそう

心のバリアフリーに取り組もう

障害があることではなく、障害のある人を含めずすべての人に配慮していない社会にバリアがあります。



障害のある人が描いた絵画やパラスポーツ選手の活躍を見て、“障害があるのにえらいなあ”と思ったことはありませんか。障害のある人はかわいそうで、一方的に助けられるべき存在であるという考えは誤りです。

障害は、社会のバリア（障壁）と個人の心身機能の障害の両方で作り出されるものであり、社会のバリアを取り除くのは社会の責任です。このことを理解し、心身機能の障害についてよく学び、障害のある人とコミュニケーションをとって、社会のバリアによってどんな困りごとがあるのか気づくこと、そして実際にバリアを取り除く行動をすることが重要です。

一人ひとりが心のバリアフリーを実践して、バリアのない社会をつくっていきましょう。

心のバリアフリー

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支えあうこと



多様性を認め合おう

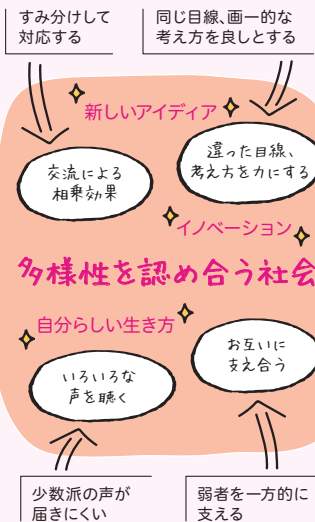
誰一人取り残されることのない社会はSDGsの基本理念です！



私たち人間は、人種や国籍、年齢、性別、性自認、障害の有無など、それぞれ異なる個性を持ち、一人ひとりに価値観、生き方があります。こうした違いを認め合い、多様な価値観や生き方を尊重することが大切です。

一人ひとりの違いを受け入れることで、私たちは自分らしく生きることができ、安心して能力を発揮することができます。また、人種や身体の特徴、考え方、得意・不得意が異なるからこそ、互いに助け合うことができ、新しいアイデアやイノベーションを生み出すことができます。

多様性を認め合い、誰もが生き方を選択し、自分らしく生きられる社会、アイデアやイノベーションを生み出し続ける強い社会を築いていきましょう。



その他の取組

- 外国人と積極的にコミュニケーションをとろう
- パラスポーツに参加しよう
- 困っている人たちのために、ポイントを寄附しよう → ゴール1
- フェアトレード商品を購入しよう

NPO法人トルシーダ代表理事 伊東 浄江さん

外国人の子どもの居場所づくりや日本語教室などを行っています。日本で暮らす外国人は普通に暮らしたいと思っていますが、日本社会は閉鎖的で難しいのが現実です。まずは、そういう子どもたちがいることを知ることが大切です。そのためには、近所に住む外国人に話しかけてみる、放課後の遊びや部活動に誘ってみる、日本語教室やボランティア活動に参加するなど、外国人と触れ合うことが必要です。“あの人は外国人だから違う”とシャッターを下ろすのではなく、言葉や習慣、価値観などの違いに興味を持ち、楽しんでほしいと思います。外国人を“視野を広げ、生活や人生を豊かにしてくれる隣人”として受け入れてほしいと思います。





住み続けられるまちづくりを

地震や風水害などの備えを万全にしよう

備蓄は最低でも
1人当たり3日分、
できれば1週間分が
必要です。



地震や風水害など自然災害が多い日本で、安全・安心に暮らし続けていくためには、日頃から一人ひとりが防災について考え、事前に備えておくことが大切です。

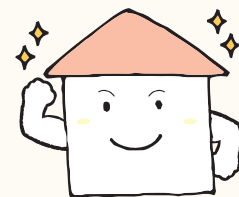
地震による家具の転倒・落下でケガをしたり、避難路がふさがれたりしないように、家具を固定したり、配置を見直しましょう。防災訓練に参加したり、食料や飲料水、携帯トイレなどの備蓄品や避難時に必要な非常持ち出し品の点検を行うことも大切です。

また、家族で定期的に防災会議を開き、お互いの避難場所や家族間の連絡方法を確認しましょう。倒れてきそうなブロック塀や浸水しやすい低い土地など、危険な箇所がないか調べたり、ハザードマップ等で避難場所を確認して、安全に避難できる経路を考えておくことも大切です。

ほかにも…

- ガラスの飛散防止フィルムの貼り付け
- 感震ブレーカーの設置
- 暖房機器の周囲に燃えやすいものを置かない

などがあります！



まちづくり活動に積極的に参加し、まちの魅力を高めよう

住民のアイデアで
いろんなイベントや
まちづくり活動が
行われたらもっと
魅力的に！



“住み続けられるまち”であり続けるためには、そこに住む一人ひとりが、まちを大切に、まちの魅力を後世に引き継いでいくことが必要です。

まずは、まちの自然、歴史、文化、産業、グルメ、人々の営み、お店など、まちの魅力を発見することが重要です。図書館などで調べてみたり、古くから地域に住んでいる人に話を聞いたりして、まちについて学びましょう。そして、まつりや伝統行事といった地域の行事や子ども会・老人クラブの活動などに積極的に参加することが大切です。こうした活動が活発に行われ、活動を通じて地域の人同士が交流することが、まちの魅力を高め、元気につながるにつなげられます。

まちを元気に

地域の
行事

まちをきれいに

美化活動

まちを安心・安全に

交通ルール遵守
交通安全活動
見守り隊



住み続けられるまち

その他の取組

- 地域の美化活動に参加しよう
- 交通ルールを守って安全運転を心がけよう
- 交通安全活動に参加しよう
- 見守り隊など安全なまちづくり活動に参加しよう
- 文化財の保全活動に参加しよう

有松まちづくりの会会長 竹田 嘉兵衛さん

価値あるまちを残そうという思いをメンバーで共有し、行政への働きかけを行うなど、まちなみ保存に取り組んできました。現在も月1回、有松のまちの景観をどのように整えるかを話し合う場を設けています。ソフト面では、文化のあるまち、誰もが行ってみたいくなるまちをめざして地元のイベントに参加しているほか、「有松あないびとの会」の方がまちの歴史・文化や救命救急などについて研修を重ね、まち歩きのご案内を行っています。まちづくりは、こういうまちにしたいという夢を語りあい、将来へのビジョンを持つことが大切です。有松以外のまちも、住民の力で“住んで楽しい”“故郷を楽しめる”まちになるといいと思います。





つくる責任つかう責任

食品ロスを減らそう

日本は多くの
食料を海外から
輸入しているのに……



食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことです。日本では、毎年約500万トンの食品ロスが発生しています。一人当たりで換算すると、国民全員が毎日お茶碗約1杯分のまだ食べられる食品を捨てていることになります。

食べ物をゴミとして処理することは、資源の無駄遣いになるだけでなく、焼却処理されることで地球温暖化にもつながります。

食品ロスを減らすためには、計画的に買い物をする、買ったものは食べきる、余った食品は冷凍して後日使いきるなど、できることから取り組むことが大切です。

ほかにも…

- すぐ食べるものは賞味期限・消費期限の迫ったものを選ぶ
- 食べきれぬ分だけ注文する
- 空腹時の買い物を控える

などがあります！



エシカル消費を心がけよう

エシカル消費とは、「地域の活性化や雇用なども含めた、人や社会、地域、環境に配慮した消費行動」のことです。例えば、障害のある人が生産に関わった商品を購入することで障害者支援につながりますし、フェアトレード商品を購入することで途上国の人たちの生活を守ることができます。

商品を購入する時に、“自分にとってどれくらい得か”といった基準ではなく、エシカル消費を意識することで、人や社会、地域、環境に配慮した企業等を応援することになり、結果的に持続可能な社会をつくることにつながります。

他者を思いやる
「思いやり消費」
「応援消費」
ですね！



エシカル消費につながる認証ラベル・マーク例



国際フェアトレード
認証ラベル
チョコレート、コーヒーなど



GOTS認証ラベル
衣服、タオルなど



有機JASマーク
牛肉、ハム、チーズなど



エコマーク
文房具、家電製品など



伝統マーク
伝統的工芸品

その他の取組

- ものを大切にしよう、修理して長く使おう
 - エコ商品を購入しよう
 - リサイクルを心がけよう
 - 洋服をリサイクルに出そう
 - プラスチックごみを減らそう
- ゴール14

どんぐりピット合同会社CEO 鶴田 彩乃さん

日本は食料をたくさん輸入している一方で食品ロスが多いという社会問題を、地域での横のつながり、人と人とのつながりで解決できたらと思い、シェア冷蔵庫を始めました。まさに特別な冷蔵庫を置いて、農家さんが採れすぎたり余ったりした食材を入れると地域の方が購入できる、令和のおすそ分けサービスです。また、規格外野菜を使ったカレーの開発もしています。形の悪い野菜も同じように手塩にかけて育てられているし、すごくおいしいので、大切にしたいと思っています。シェア冷蔵庫の食材や規格外野菜にも目を向けていただき、食品ロスの削減や地域の生産者の応援にご協力いただければと思います。





気候変動に具体的な対策を

節電に努めよう

電力会社の
節電プログラムに
参加するのも
いいですね!



私たち人間の活動によって、大量の温室効果ガスが大気中に放出され、生態系や人間社会に大きな影響を及ぼしています。

温室効果ガスの代表的なものは二酸化炭素です。二酸化炭素の排出量を減らすには、石炭、石油、天然ガス等の化石燃料の消費を減らす必要があります。家庭から排出される二酸化炭素のうち、電気が5割を占めることから、電気の使い方を見直すことが重要です。エアコンの設定温度を適切にする、家電のコンセントをこまめに抜くなど、節電を心がけましょう。

家族が同じ部屋で団らんすると、
エネルギー消費量が2割削減!

ほかに…

- 冷蔵庫に食材をつめこみすぎない
- 必要のない照明はこまめに消す
- ポットやジャーの保温を控える

などがあります!



エコ モビリティ ライフに取り組もう

体を動かすことで
健康や快適さにも
つながります。



自動車は非常に便利で、私たちの生活に欠かせない乗り物ですが、日本の二酸化炭素排出量のうち、運輸部門からの排出量は2割で、そのうち自動車からの排出が9割を占めています。自動車による環境負荷を減らすため、私たち一人ひとりが普段から利用している移動手段を見つめ直して、自動車と公共交通、自転車、徒歩などを賢く使い分ける「エコ モビリティ ライフ」に取り組むことが必要です。

電車やバスなどの公共交通機関を利用する、近い距離は自転車や徒歩で移動する、自動車を利用する時はエコドライブを心がけるなど、毎日の通勤や通学、買い物などのちょっとした外出方法を見直してみましょう。

エコドライブの10のすすめ

- ふんわりアクセル「eスタート」
- 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- 減速時は早めにアクセルを離そう
- エアコンの使用は適切に
- ムダなアイドリングはやめよう
- 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- タイヤの空気圧から始める点検・整備
- 不要な荷物はおろそう
- 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- 自分の燃費を把握しよう

TOPICS 地球温暖化に対する緩和策と適応策

地球温暖化に対する取組には、大気中の温室効果ガスの排出を削減し、地球温暖化の進行を抑制するための「緩和策」と、気候変動により既に現れている影響や中長期的に避けられない影響に対して、被害を回避・軽減するための「適応策」があります。節電や「エコ モビリティ ライフ」は緩和策の取組です。一方、適応策としては、熱中症予防、農作物の高温障害対策、治水対策、渇水対策等があります。

その他の取組

- 省エネ製品に切り替えよう → ゴール7
- クールビズ・ウォームビズに取り組もう
- ガスの節約に努めよう
- 再配達にならないよう宅配便を1回で受け取ろう
- 緑のカーテンづくりに取り組もう
- 熱中症対策を心がけよう

半田市立乙川東小学校校務主任 永田 貴郎さん

環境教育の一環でグリーンカーテンに取り組んでいます。2022年度はヘチマとゴーヤとアサガオを植えました。この3種はとても育てやすく、特にゴーヤは収穫もできるので、楽しみながら育てることができます。夏にはつるが2階まで伸びて、天然のカーテンができました。グリーンカーテンがある部屋とない部屋の室温を測ったところ、1~2度の差がありました。また、グリーンカーテンがある部屋は直射日光が当たらないので、無駄に冷房の温度を下げずに過ごすことができます。育ててみたい植物や、観察で使う植物、食べられる植物など、とっつきやすい植物で取り組んでみてほしいと思います。





海の豊かさを守ろう

水産エコラベルの付いた水産品を選ぶ

鮮魚や缶詰、
冷凍食品、おにぎり
などに付いています。



世界の水産資源の約35%は持続可能なレベルを超えて漁獲されており、このままでは、身近な魚が食べられなくなるおそれがあります。いつまでもおいしい魚を食べられるよう、持続可能で適切な方法で水産物の漁獲・養殖を行うことが必要です。

MELラベル、MSCラベル、ASCラベルなどの水産エコラベルは、生態系や資源の持続性に配慮した方法で漁獲・生産された水産物の証です。水産物の生産から消費者に届くまでの生産・流通・加工に関わるすべての事業者が認証を受けています。

日本の一人当たりの魚の消費量は世界でもトップレベル。私たちの水産物の消費のあり方が世界の水産資源を守る上でとても重要です。水産エコラベルが付いた商品を選ぶことで、持続可能な漁業・養殖業に取り組む事業者等を応援することになり、豊かな海を取り戻すことにつながります。

水産エコラベル



プラスチックごみを減らそう

海のプラスチック
ごみの量は、2050年
には魚の量を上回る
といわれています。



プラスチック製品は非常に便利で、私たちの生活を支えています。ポイ捨てされたり、ごみ集積所から溢れ出たりしたものが川を通じて海に流れ出ると、海岸の景観を悪化させるだけでなく、海洋生物に悪影響を与え漁業の妨げになるなど、様々な問題を引き起こすおそれがあります。

また、紫外線や波などによって細かく砕けた、いわゆるマイクロプラスチックには、海の中で有害物質が付着するといわれており、それを誤って食べた魚を人が食べることによる健康への影響が心配されています。

プラスチックごみを減らすため、エコバッグやマイボトルを持ち歩く、環境に配慮された包装の商品を購入する、ごみ拾い活動に参加するなどに取り組みましょう。

日本の一人当たりのプラスチック
容器包装の廃棄量は世界で
2番目に多く、年間約32kgに相当！

ほかにも…

- ポイ捨てをしない
- 散乱しないようにごみの出し方を工夫する
- 使い捨てプラスチックごみ削減に取り組んでいる企業等の商品を選ぶ

などがあります！



その他の取組

- 海や川に行ったらごみは持ち帰ろう
- 海岸や川岸の清掃活動に参加しよう

愛知県立一色高等学校生活デザイン科 水野 拓音さん・角谷 模香さん

クラブ活動の一環で佐久島の海岸清掃を行いました。海を漂ってきたペットボトルやプラスチックごみがたくさん落ちていて、とても汚かったです。膨大な量のごみは島の人たちの生活の支障にもなっています。まずは、ボランティアに参加するなどして現状を知ってほしいです。ポイ捨てを少なくしたら流れ着くごみは少なくなります。ポイ捨てをする人は“これくらいいいや”と考えているかもしれませんが、海を漂うごみを魚が食べて、その魚を私たちが食べています。自分に返ってくると認識して、ポイ捨てをやめてほしいです。遠い地域から流れてきたごみもあったので、周辺地域だけでなく、みんなでごみを減らす必要があると思います。





陸の豊かさも守ろう

FSC®マークの付いた紙製品・木材製品を選ぼう

森を元気にするには、木を使うことが大切です。



森林は地球の陸地面積の3割を占め、水を育み、木材や食材を供給するとともに、野生生物の生息の場、二酸化炭素の吸収と炭素の貯蔵、土砂災害の防止などの役割を担っています。

このように豊かな恵みを与えてくれる森林ですが、世界の森林は、乱伐や違法伐採などにより減少を続けていることから、適切に管理していくことが必要です。一方、日本の森林は、本格的な利用期を迎えていることから、“伐る・使う→植える→育てる”循環利用を進める取組が重要です。

FSCマークは、森林の生物多様性を守り、地域社会や先住民、労働者の権利を守りながら適切に生産された製品であることを示すマークです。FSCマークが付いた商品を選ぶことで、適切な森林管理を行う事業者等を応援することになり、森林保全につながります。

森林から最終製品になるまでの生産・加工・流通に関わるすべての組織がFSC認証を受けています！

100%、ミックス、リサイクルの3種類



紙製品

紙袋、紙パック飲料の容器、メモ帳、トイレトペーパー、紙ストローなど

木材製品

はし、木製コースター、鉛筆、家具(机、イス)など

外来種に関する知識を身につけよう

外来種を悪者扱いせず、人間が引き起こした問題として取り組みましょう。



外来種とは、もともとその地域に存在しなかったのに、人間の活動に伴って他の地域から入ってきた生物のことです。国外だけでなく、国内の他の地域から来た生物も外来種になります。

外来種の中には、オオキンケイギクやアライグマ、ヒアリのように、地域の生態系に悪影響を及ぼすものや、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼすものもいます。こうした悪影響を及ぼす外来種は「特定外来生物」に指定され、飼育や栽培などが原則禁止されています。

野菜や花、ペットなど、外来種は私たちの身近にたくさん存在し、欠かせない存在ですが、野外に放たれると生態系等に悪影響を及ぼすことがあります。外来種に関する知識を身につけて、私たちにできることを考え、実践しましょう。

- ペットを飼う前に「どのくらい大きくなるのか」「どう猛ではないか」「どのくらい生きるか」を確認する
- ペットは最後まで責任をもって飼う
- 野菜や花を植える時は、敷地から出ないように管理する



その他の取組

- 森づくり活動や里山保全活動などに参加しよう
- 県産・国産木材を使用した製品を選ぼう
- 緑の募金を通じて森林整備を行おう
- ペーパーレスに取り組もう
- 再生紙を利用しよう
- 絶滅のおそれのある生物を守り育てる活動に参加しよう

東レ株式会社東海工場 中根 康幸さん

工場内にビオトープを造成し、学生の参画を得て、絶滅危惧種ミナミメダカの保全や、チョウを誘引するためのフジバカマの植栽など、生態系の創出・保全を行っています。活動を行うことにより、環境に対する意識が変わり、外来種の駆除等を他の企業や団体と一緒に行動するなど、活動の幅が広がっています。人間が豊かに暮らしていくためには、自然環境や生物多様性を守ることが必要です。まずは、自然環境の現状や私たちがすべきことを知ることが大切です。その上で、自治体や環境保全団体が実施する講座や活動など、活動のベースができていくところに参加してほしいと思います。それにより、活動の幅が広がっていくと思います。





平和と公正をすべての人に

ゴール16は、世界の平和と公正を実現することを目標としています。“平和”という、その逆の紛争やテロなど日本とは遠いイメージを持つ方も多いと思いますが、ゴール16には、暴力や差別の根絶、公正な裁判、政治参加なども含まれています。

特殊詐欺に遭わないための対策をしよう

特殊詐欺の
手口を
知ることが
大切です。



特殊詐欺とは、電話をかけるなどして対面することなく相手を信用させ、お金やキャッシュカードをだまし取る犯罪のことです。例えば、親族などを装って電話をかけ、事件・事故などを理由に金銭等をだまし取る「オレオレ詐欺」、役所を装って「還付金がある」と電話をかけ、ATMから振込をさせてお金をだまし取る「還付金詐欺」などがあります。

被害は大都市圏に集中しており、愛知県では2021年に874件発生しました。被害者の9割は高齢者で、特に高齢女性が多くなっています。被害に遭わないためには、不審な電話に出ないための対策をする、電話でお金の話が出たら誰かに相談する、定期的に家族と連絡を取り合うなどが大切です。

不審な電話に
出ないための対策

- 「非通知」の電話に回答しない
- 防犯機能付き電話機を活用
- 常時留守番電話に設定し、内容が確認できるまで電話に出ない

などがあります！



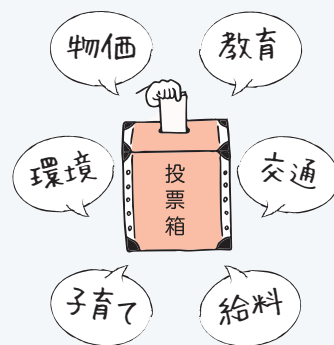
選挙に行こう

投票は少しの
時間で政治に
参加できます！



私たちの生活には、交通、教育、物価など様々な問題が密接に関連していて、これらの問題の解決に政治が直結しています。平和で公正な社会の実現には、少数の人に権力が集中しないよう、多くの人々が政治に参加することが重要です。しかし、日本では投票率が低く、特に若年層の投票率が低いことが課題です。

私たちの生活をより良くするには、一人ひとりが積極的に政治に関心をもって関わっていくことが大切です。まずは、選挙の際は投票に行って、自分の意見を政治に届けましょう。



その他の取組

- 近所の人に積極的に声がけをしよう
- 児童虐待の疑いに気づいたら通報しよう
- 子どもたちとあいさつを交わし、困っている保護者に声をかけよう
- 安全なまちづくり活動に参加しよう
- ハラスメントをなくそう

深田防犯クラブ会長 渡邊 信廣さん

老人会のメンバーを中心に防犯クラブを立ち上げ、自主・自立・自助で住民のために活動しています。月3回、防犯パトロールを行い、空き家の異変や不審者がいないかを確認しているほか、住民と一緒に防犯活動も行っています。住民に「不審者警戒中」の表示板を配付し、自転車の前かごにつけてもらい、住民が買い物などで地区内を走るだけで犯罪抑止になるといった取組を行っています。また、住民によるあいさつや声かけも犯罪抑止になることから、住民へのあいさつ等の呼びかけも行っています。どちらも誰にでもできる防犯活動です。今後も仲間を増やし、住民とともに、安全・安心なまちづくりを進めたいと思っています。





パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsに関するイベントなどに参加しよう



SDGsの達成に向けては、国や自治体、企業、団体、学校、地域、そして私たち一人ひとりが連携して取り組むことが重要です。

その一歩として、SDGsに関するイベントなどに参加してみてもはいかがでしょうか。SDGsに取り組んでいる企業や団体の方と話をしたり、疑問に感じたことを尋ねたりして交流することがパートナーシップにつながります。

愛知県では、SDGsに関するイベントや、若い世代が企業などの協力のもと、社会課題の解決に向けて学び、考える事業を実施しています。積極的に参加して、SDGsを合言葉にみんなで課題解決に取り組みましょう。

愛知県のSDGsに関するイベントなど

SDGs AICHI EXPO

企業・大学・NPOなどの各主体間のコミュニケーションの促進やパートナーシップの構築、SDGsの県内全域への普及・浸透を目的としたイベントです。ステージイベント、SDGsに率先して取り組む企業等によるブース出展などにより、楽しみながらSDGsの理解を深めることができます。



かがやけ☆あいちサスティナ研究所

大学生を対象に、持続可能な未来のあいちの担い手を育成するための人づくりプロジェクトです。研究員となった大学生が、パートナー企業等から提示された環境面での課題に対して、現場での調査や企業等の担当者とのディスカッションを経て解決策を提案します。



あいちの未来クリエイティブ部

高校生が地域の環境問題について深く学び、その成果をもとに環境問題についての学習教材を作成し、広く発信する活動です。これまでに、絶滅危惧種のウシモツゴについて学ぶカードゲームや海ごみについて学ぶボードゲームなどが作成されました。



あいちスタートアップスクール

小中高生を対象に、起業について知り、新規事業の立ち上げを体験するワークショップです。自分で考えたアイデアや起業家による講演をもとに、身近な課題の解決方法を検討したり、投資家へのプレゼンテーションを体験したりするなど、自分で考え行動することで将来の選択肢を広げ、起業を志す人材を発掘・育成します。



SDGsを“自分ごと”として考えて、できる取組から実践しよう！

一人ひとりが今より一つ、地球にやさしい行動を増やして、**地球1個分**の生活を実現しよう！



SDGsの達成に向けた愛知県の取組

これまでのあゆみ

2019年	7月	SDGs未来都市に選定 愛知県SDGs推進本部の設置
	8月	愛知県SDGs未来都市計画(第1期)の策定
2021年	9月	愛知県SDGs登録制度の創設
2022年	3月	愛知県SDGs未来都市計画(第2期)の策定



愛知県では、SDGsの達成に向けて、全庁を挙げて取組を進めています

SDGsに貢献する事業の実施

17 パートナシップで目標を達成しよう

- SDGsの普及啓発
- SDGsに取り組む主体同士のマッチングと新たな取組の創出の促進 など

1 貧困をなくそう

- ひとり親家庭等に対する就業支援
- 生活困窮世帯等の子どもに対する学習支援・居場所の提供 など

10 平等と公正をすべての人に

- 安全なまちづくりの推進
- 児童虐待対策の推進 など

2 飢餓をゼロに

- スマート農業の推進
- 県産農林水産物の高付加価値化・ブランド力強化 など

15 陸の豊かさも守ろう

- 県民や事業者との協働による生物多様性保全の推進
- 県産木材の利用促進 など

3 すべての人に健康と福祉を

- 生活習慣病対策の総合的な推進
- 新型コロナウイルス感染症対策 など

14 海の豊かさも守ろう

- 干潟や浅場、漁礁の総合的な整備
- 海洋ごみ対策 など

4 質の高い教育をみんなに

- 少人数学級の実施
- ICTを活用した教育の推進 など

13 気候変動に具体的な対策を

- 脱酸素プロジェクトの創出・支援
- ゼロエミッション自動車の普及促進 など

5 ジェンダー平等をすすめる

- 企業が行う女性活躍に向けた取組への支援
- 女性起業家・経営者や起業に関心のある女性への支援 など

12 つくる責任 つかう責任

- 食品ロス削減対策
- エシカル消費の普及促進 など

6 安全な水とトイレを世界中に

- 水道事業の運営、施設の整備
- 水源林の造成・森林整備 など

11 住み続けられるまちづくりを

- 愛知県基幹的広域防災拠点の整備
- 県内市町村のスマートシティ化に向けた支援 など

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- 環境・新エネルギー関連企業の育成・誘致
- 水素ステーションの整備促進 など

10 人や国の不平等をなくそう

- 障害のある方の社会参加と障害への理解促進
- 多文化共生社会づくりの推進 など

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- STATION Aiプロジェクトの推進
- 自動運転の社会実装の推進 など

8 働きがいも経済成長も

- 多様な人材の活躍促進
- 戦略的な産業集積の促進 など

SDGs達成に向けたステークホルダーの取組の促進

普及啓発事業

- **SDGsに関する講演**
SDGsや愛知県の取組について講演
- **SDGs普及啓発パンフレット**
- **愛知県SDGs登録企業等交流会**
SDGsの達成に向けた取組を行う企業同士のマッチングと新たな取組の創出を図る交流会を開催

愛知県SDGs登録制度

SDGsの達成に向けて取り組む企業・団体等を登録し、取組を「見える化」することで、具体的な取組を促進



市町村及び企業等との連携

- **市町村との連携**
県内市町村との情報共有・連携強化
- **企業等との連携**
[包括協定に基づくSDGsの推進]
SDGs登録企業等向けメールマガジンへの協力やSDGs啓発イベントの開催 など